

艦政本部第一三〇號

局長

進達

常備艦隊高穗秋津洲聯合演習結果報告

密書

右及進達候也

明治三十三年十二月六日於香港

常備艦隊司令官瓜生外吉

第一部長

海軍大臣男爵山本權兵衛殿

進達艦隊長官ハ別進達滄有之候也

海軍

0741

警備枝隊高千穂秋津洲聯合
常裝藥艦砲射擊報告

明治三十六年十二月五日於香港旗艦高千穂

瓜生常備艦隊司令官

本射擊ハ明治三十六年十月三十日清國廣東省碣石灣ニ
於豫定次茂書ノ如ク實施セリ當時偏東風ニ基ケル艦前灣
深ク灣内ニ侵入シ為ニ艦横動四度ヨリ七度ニ達シ縱動モ隨テ大
ナリモ比較的良好ノ成績ヲ得且ツ兵器ノ故障兵員ノ負傷等
毫モナク最モ円滑ニ結了シタリ先キ我主隊ガ此ノ種ノ射擊ヲ實
施シテ得タル教訓實驗ガ本回射擊ノ大ナル參考トナリシハ言フ迄
モナク而シテ更ニ本射擊ノ為メ一同ガ得難キノ實驗ヲナシ上下ノ士
氣ヲ振作セル所大ニ又全般ヲシテ注意心ト研究心トヲ惹起シタルハ
誠ニ顯著ナリトス

一 射撃地碓石鎮灣

南方ニ暴露スル大灣ナレモ北東信風期ニ在テハ風浪ヲ遮蔽シ
錨泊ニ適ス灣内漢船多クモ灣外邊力ノ距離
ニルモノ多数ヲ占メ射撃鬼トスベキ邊ニ稀ニ散在ス而モ之ヲ危
害ナキ區域ニ避ケルニ難カラズ其多クハ打網船ニシテ夕刺ニ至レ
バ皆灣内ニ向テ皈來スルヲ以テ射撃ヲ妨害ス

二 標的 灣口ニ在ル西拮嶼トセリ

西拮嶼ハ高サ四十五尺底邊約三百十尺全嶼大岩石ヨリ成リ
其形附圖ノ如シ中央ニ切り欠部アリテ左右ニ部ニ分ツヲ以テ實
際ハ全長ノ半ニ等シキ標的ヲ用ヒタルト殆ンド異ナラス嶼ハ諸所
縦横ニ罅裂ノ線アルヲ以テバリス式測距離ヲ使用スルニ都合宜シ
其全形ヲ先ニ主隊が標的ニ撰定セル色瀨ト比較スルニ之ニ酷似
テ稍低シシ附近危害ヲ他ニ及ボスノ患ナク播彈射撃ニハ誠ニ得

易ウラガル好標的ナリ今回ハ二旗竿ヲ植立セリ

三 射撃ノ進行

(1) 秋津洲射撃開始
全 終結

午前十時三十六分
午前十一時二十分
四十二分

速力

側方臨的艦

十三節

(2) 高千穂射撃開始

高千穂

全

終結

午後零時十五分
全 一時廿四分
一時九分

臨的艦

秋津洲

速力

十三節

四 望遠鏡照准装置

秋津洲重砲ハ總テ望遠鏡照准装置ニシタルニ艦動揺稍多
カリシモ拘ラス常ニ照准ヲ保テ得テ其結果ハ良好ナリカ如シ

高千穂ハホダ僅カニ二箇ノ望遠鏡照準器ヲ備フルニシテ其
一箇ハ誤差常ニ著シク他ノ一箇ハ誤差比較的小ナルモ正確ヲ
保シ難カシ為メ使用セザリシ

五成績

附表ノ如シ其比較的良好ナリシハ兩艦ガ熱心内筒砲射撃照
準執旨古ヲセル者與テ大ニカアリシハ言ヲ待タズ而シテ左舷砲發射
ハ砲前待ヲ艦ニ受ケ動搖多カリシ為メ成績常ニ劣リタリ

六賞與

豫定方法ニ基キ艦長ヲ經テ授與セリ

四七尹以上ノ砲一掃 一等秋津洲 二等高千穂

四十七密保砲 一等秋津洲 二等秋津洲

七攻究實驗セル事項及意見等

(1) 兩艦ニ於ケル砲火指揮ノ系統概畧

兩艦共ニ備砲配置單純ニテ號令ノ傳達法モ至テ單簡
ナリ其指揮系統ニ就テ射擊前秋津洲艦長ノ射撃スベ
キ實際距離苗頭ヲ艦橋ヨリ發令シテ絶ヘズ自ラ之修正
ニ任セント思考セリ然レモ熟考スル備砲ノ種類全シカズニ
其苗頭ヲ艦橋ヨリ令セシハ他ニ幾多繁雜ナル任務ヲ有
ル艦長ノ到底遂行シ能ハル者ニテ思ヒ遂ニ依ラレムベキ距
離ト彼我方向速カトヲ令シテ苗頭砲台將校ヲ任セシ
ルノ法ヲ採リ

高千穂砲火指揮ノ系統秋津洲ノモノニ畧全シ

(四) 山内式輕速射砲自働裝置

其働作不良勝ニテ射撃ノ妨礙トシ實例アルヲ慮リ主
隊射撃ノ際ハ概シテ此自働裝置ニ依ラザリ本回射撃
ニ於テハ其果シテ幾何ノ程度ニ不良ナルヤ否マヲ知ラシガ為メ兩艦

三門(他ノ一門ハ羨ヲヨリ此装置ニ故障アリシヲ以テ止ム)共自動装置ニ依リタル唯一門莫ニ發目ニ働作セズ莫ニ發目以後ハ矢張自働装置ニ依リ發射シタルモノアリタルニシテ他ハ總テ良好ナリシ

(イ)照尺ニ望遠鏡ヲ装スルハ其重量ニ依リ照尺自ラ降下セリ依テ照尺昇降纜輪ニ彈力強キ發條ヲ換用セルニ結果良好ナルヲ得タリ

(ニ)安全装置軸栓ノ突子ノ縁摺減リ且ツ之ニ嵌合スル尾栓部ノ溝ノ縁モ摺リ減リ尾栓ノアリテ閉鎖杆ヲ未ダ充分閉鎖セザルニ安全装置ハ發射ノ位置トナリモノアリ此故障ハ尾栓閉鎖ノ頻繁ナルニ對シ必ズ起ルベキコトニシテ然カモ尾栓未ダ充分閉鎖セザルニ發射ノ位置トナリ甚ダ危険ナリトス從來懸賞射撃時往々射手が為ス如ク引金ヲ引詰メニナシ置クが如キトナス

場合ニ在テハ危険ヲ醸スハ必然ナリトス

(ホ) 藥筈ノ藥室ニ嵌合セザリモノ單ニ四十七密保砲ノ分ニ發ア

リレノミ

(ハ) 六寸藥筈ニ縱裂ヲ生ゼシモノ一個

(ト) 四十七密保砲苗頭尺ハ特ニ假製シテ今回ノ射撃ニ應用セ
リ速ニ之ガ制定備付ヲ要ス

(チ) 榴彈ノ大部ハ水面ヲ撃テタルト標的ヲ撃テタルトヲ論ゼズ爆
裂セリ唯四十七密彈ノ水面ヲ撃テタルモノニ在テハ詳ナリカシ

(リ) 西桔嶼ニ於ケル彈痕ハ想像セヨリモ榴彈爆裂ノ堅固ナ

ル岩石ニ對シ與ヘタル傷害ノ小ナリシヲ與見ユ然レモ徹甲彈

ハ極メテ小片ヲ僅カニ嶼上ニ残スヲ以テ見ルニ其爆裂飛散

ノ猛烈ナルハ推ス可シ

(ニ) 射撃中射撃艦ト臨的艦間ニ無線電信ノ通信ヲ試驗

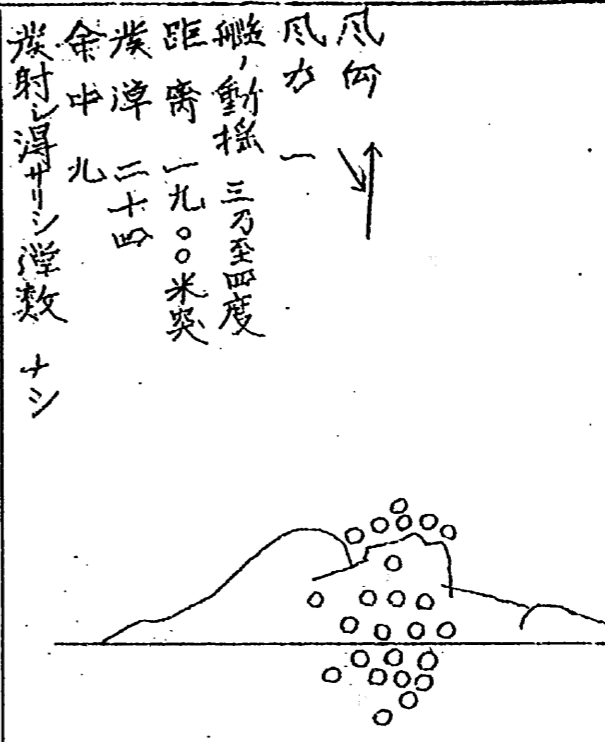
シ見タルニ毫モ故障ナク通信スルヲ得タリ
之ヲ要スルニ故障ト称スベキ故障ナク満足ニ結了スルヲ得タル主
隊射撃ノ結果ニ鑑ミ豫メ充分ノ注意ヲ示タルニ依ルモノナキニ
非ルモ又以テ平素ノ訓練注意ノ良好ナルヲ知ルニ足レリ
了

0749

軍艦高千穂彈着表

明治三十六年十月三十日

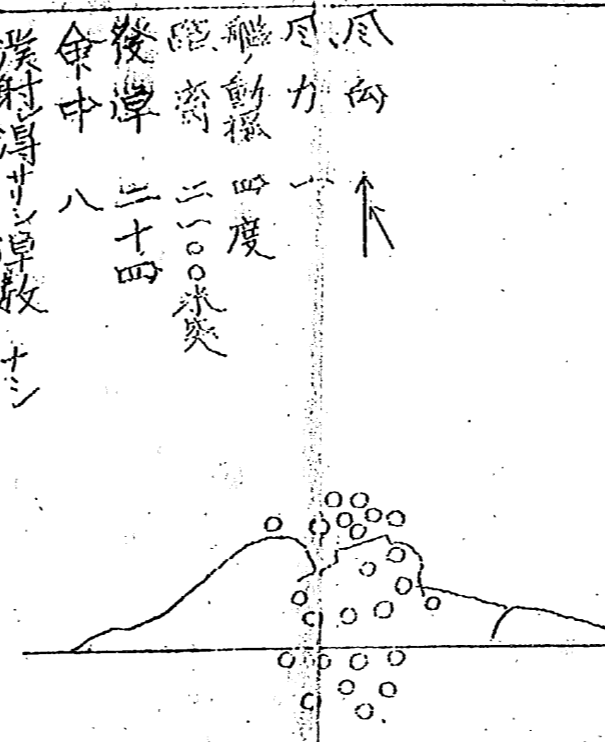
第一回 右舷
砲種 四十七番保砲六門



第三回 右舷
砲種 六番砲四門

風向 ↑
風力 一
艦動搖 三乃至四度
距離 一九〇米突
炭彈 二十四
命中 九
炭射得サシ弾数 ナシ

第二回 左舷
砲種 四十七番保砲六門

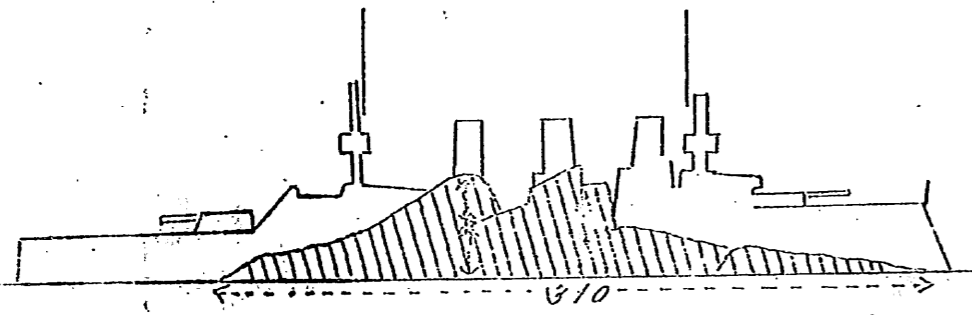


第四回 左舷
砲種 六番砲四門

風向 ↑
風力 一
艦動搖 七度
距離 三二〇米突
炭彈 十
命中 三
炭射得サシ弾数 二

西結山嶼ト露艦マレスビエツトノ比較

北西ヨリ見タル片
山ノ高四十五呎
山ノ底約三百十呎



軍艦秋津洲彈着表

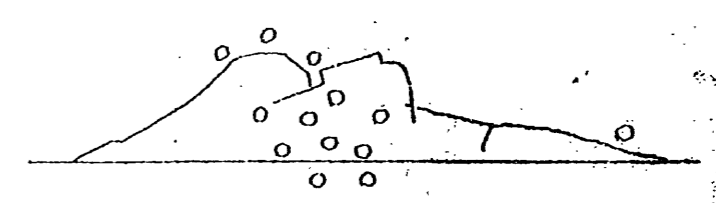
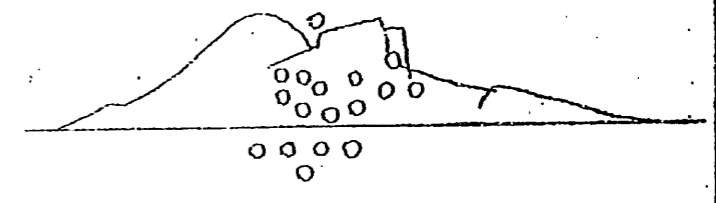
明治三十六年十一月三十日

第一回 右舷
砲種 四十七 慕保砲五門

第三回 右舷
砲種 四六 七早砲
參戰門

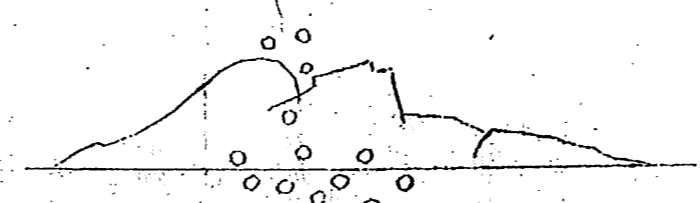
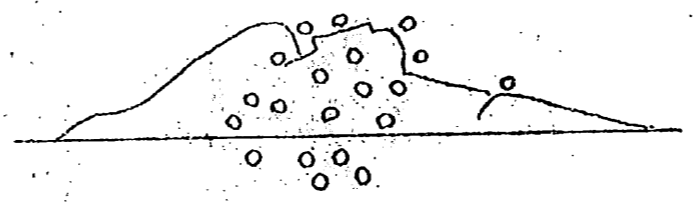
風力 二
風向 ↓
艦動揺 三乃至四度
距離 二一五〇米突
命中 十七
余中 十一
誤射 得サリシ 弾数 三

風力 二
風向 ↓
艦動揺 三乃至四度
距離 三二〇米突
命中 十三
余中 七
誤射 得サリシ 弾数 二



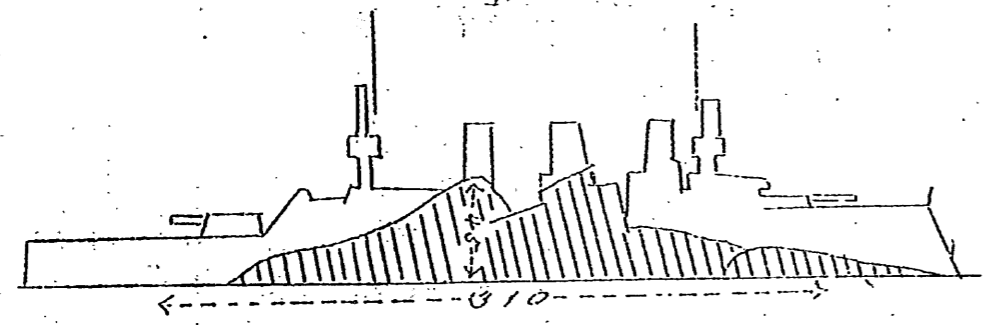
第二回 左舷
砲種 四十七 慕保砲五門
風力 二
風向 ↑
艦動揺 四度
距離 二三〇米突
命中 二十
余中 十
誤射 得サリシ 弾数 〇

風力 二
風向 ↑
艦動揺 七度
距離 三一〇米突
命中 十四
余中 四
誤射 得サリシ 弾数 二



西桔嶼ト露艦「パレスビエツト」トノ比較

北西ヨリ見クルニ
山ノ高 四十五呎
山ノ底 約三百十呎



明治三十六年十月
高千穂
秋津洲
常装樂射擊成績表

左右舷百分比

二	一	順序績		四	三	二	一	順序績
高千穂	秋津洲	砲種百分比		高千穂	高千穂	秋津洲	秋津洲	四十七密砲
三五、四	五三、五		左舷	右舷	左舷	右舷	五五	
二	一			三三、三	三七、五	五〇	一	順序績
高千穂	秋津洲			三四	三	二	一	六尹、四、七尹砲
三三、四	三六、七			高千穂	秋津洲	高千穂	秋津洲	
				左舷	左舷	右舷	右舷	
				二五	二六、七	四一、七	四六、七	



警備枝隊高千穂秋津洲聯合常装藥
艦砲射撃次第書

明治三十六年十一月廿七日於廈門港旗艦高千穂

瓜生常備艦隊司令官

- 一、本射撃ハ廈門ヨリ香港ニ赴クノ途上銅山港沖 *Wing*
（留島）若クハ紅海灣東提嶼ヲ標的トシ一艦射撃
 艦トナリ一艦ハ側方監的艦トナリ交互一艦宛施行スルモノ
シテ本職親ヲ統轄誘導ス （碇石鎮湾西提岐の標的ヲ標的ニ採定スルナル也）
- 二、參與艦ノ擲校（少尉候補生ヲ含ム以下之倣）ハ擧テ委負タル旨
 シテ射撃ニ從事シ特ニ命セラレタル任務ヲ遂行ス可
 シ
- 三、幕僚ハ射撃幹事トナリ射撃ノ進行其他諸般ノ事務
 ニ服スヘシ

- 四、旗艦主計長ハ賞獎金材料費出納ニ任ス可シ
- 五、射撃地莫ニ於ケル射撃航路監の艦位置等ノ關係
ハ附圖第一、第二ニ指示スル所ニ據ル
- 六、標的ハ標的トス可キ岩、島ノ全体トス可キヤ否ヤハ實
視ノ上決定ス而シテ標的トス可キ岩島ニシテ測距器使
用ニ便ナル目標ナキ場合ニ在ラハ竹竿ノ類一(要スルニ)ヲ
植立ス之ガ賓施ハ秋津洲ヲシテ担當セシム
- 七、航路浮標ニハ三角標的ヲ用ヒ之カ設置ハ高千穂ヲシテ
担當セシム之レカ為ノ三角標的一個ハ秋津洲ヨリ供給
スハシ
- 八、澳舟等ノ取締ヲ必要トスル場合ニハ西艦ノ小蒸汽艇ヲ派シ
之ニ任セシム
- 九、射撃手速力

0754

十三節

一、射距離

四十七毫米砲

二千米突

四七毫米砲

三千米突

六英寸砲

此射距離、射擊艦が標的のシテ横見カキモノトス

二、各砲射擊手彈種及彈數左、如シ

徹甲榴彈	鍛鋼榴彈	通常榴彈	鑄鋼榴彈	
		四		四七毫米砲
一		二		四七毫米砲
一		二		六英寸砲

二三、射擊艦順序

第一 秋津洲

第二 高千穂

第三 射砲順序

第一 四十七密砲

第二 四七平六平砲 (本射擊ヲ於テハ全種砲ト見做ス)

二三、射擊方法

(1) 其艦固有ノ戦闘部署配員ヲ以テ固有ノ砲ニ就キ施行ス

但シ砲員ノ員數ハ艦砲操式規定ノ範圍ヲ超テルコトヲ得

(四) 一通過毎ニ艦(前部施回砲ハ右舷後部施回砲)ノ全種砲ヲ發射セシム而シテ又一通過ニ於テハ射擊時間ノ制限ヲ二

分ト定ム

但レ各砲各個ノ發射時間ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ許サズ

四十七密砲

四十秒

四十七六尹砲

一分

(ハ) 射撃艦ノ運動ハ各艦長ニ於テ隨意ニ定ムルモノトス

(ニ) 打方ニ関スル號令ハ射撃艦ノ艦長之ヲ掌ル但シ

一通過射撃時間ノ制限ニ達セルハ於ケル打方止

ノ並ニ射線上ニ於ケル危險ヲ避クルカ如キ場合

ニ於ケル打方中止及其再興ニ関スル號令ハ之ニ

特任セラレタル將校ニ於テ掌ルモノトス

止ニ基キタル時間ノ消費ハ射撃時限内ニ算入

セズ

(ホ) 各砲ニ於ケル最初ノ一發ハ打方始メテ號令前ヨリ装

填シ且ツ照準シアルモノトス而シテ打方始メテ號令ハ標

的ノ形狀大小ニ差異ヲ生セサラシメンガ為メ標的

が艦ノ広横ニ来リシハ可減制限時間ノ半ニ達スルガ

如ク艦長ハ留意シテ下スヲ要ス

(ヘ) 不發彈アリタルハ艦砲操式ノ規定ニ從ヒ一分ノ後ニア

ラセバ尾栓ヲ開クコトヲ得ス

但シ甲七密砲ニ在テハ把手ヲ起シ射撃ヲ続行ス

ルコトヲ得

(ト) 望遠鏡照準器ヲ使用スルト否トハ隨意トス

射手ハ其砲ノ一番ノミトス

(リ) 徹甲榴彈ハ各砲共ニ一發ニ裝填發射スルコトス

四、射撃負ノ服装

事業服

一五、射撃時間ノ制限及ヒ本決英書ノ規定ヲ遵守セシム

為ノ射撃艦ハ各射撃砲ニ将校一名宛ヲ配置ス可

シ而シテ各砲ニ対シテ制限時間ハ其砲カ現ニ發砲ス

ル時ヨリ起算シ又其砲ノ打

方止ノハ各砲ニ配置セラシタル将校射手ノ背ヲ叩キ

之ヲ命スルモノトス

一六、監的艦ニ射撃艦ヨリ将校一名下士一名ヲ派シ幕僚

並ニ監的艦乗組将校一名全下士一名トテ以テ監的

掛及附ヲ編制シ以テ監的ノ任ニ當ラシム

一七、成績調査ニ関スル件

(1) 規定時間中規定弾数ヲ發射シ克ハサルハ殘彈

發射セルモノト見做シ且ツ規定ノ時間ヲ全費セ
ルモノトシテ算ス

(四) 打方止ノ令アリシ以後ニ發射セルモノアリタルハ其
發射數ヲ命中彈數ヨリ減ズ

(ハ) 砲、砲具ノ破損、砲負ノ負傷其他ノ故障由リ射
撃手ヲ妨碍シタルハ其艦ノ損失トス

(ニ) 成績ノ優秀ハ各艦ニ於ケル一艦ノ同種砲ヲ以テ單位ト
シ以テ單位ノ總命中彈數ノ總發射彈數ニ於テ百分
比ニ依リテ判定ス

(ホ) 成績表ハ先キニ主隊カ射撃ノ際調製シタル者ニ
準シ幹事調製ス依テ各艦射撃成績ハ真ニ

幹事ニ差出ス可シ

一八、賞與等級及金額

0760

前項ニ依リ單位トセル四十七砲

一等賞 二等賞

全 四十七以上砲

一等賞 二等賞

賞與金額ハ追テ定ム

一九、射撃艦ノ砲術長ハ其艦兵器ノ故障等アラハ其原因

ヲ調査シ之ヲ各砲種ニ厩別ニテ談艦ノ射撃ヲ終了後速

ニ之ヲ艦長ニ報告シ艦長ハ本職ニ提出スヘシ射撃艦

ノ將校ハ其ノ調査ニ関シ砲術長ヲ補佐スルモノトス

二〇、通信ニ関スル規定左ノ如シ

(イ) 射撃事從事中ハ兩艦共ニ危險旗ヲ掲揚ス可シ

但シ射撃艦ニ在テハ之ヲ半揚シ置キ射撃ヲ開始

セントスルハ全揚シ一射撃ヲ終ラハ半揚ニ復スル

モノトス

(ロ) 射撃艦ハ次ノ信號ヲ前檣桁ニ掲ケ射撃ヲセントス

0761

砲種ヲ示シ其射撃ヲ終リタルキハ之ヲ下ヨシ続テ
次ニ射撃スルニ砲種信蹄ヲ掲揚ス

四十七密砲
四十七尹六尹砲
T P

(ハ) 監的艦ハ一通過ノ射撃終ル毎ニ余中彈數ヲ計
數信蹄ニ依リ通報ス可シ射撃艦ハ全様ノ
信蹄ヲ以テ應答ス

(ニ) 射撃艦射撃ヲ暫時中止スルカ休憩スル食
事旗ヲ掲グ

(ホ) 監的艦ニシテ彈丸破裂等ノ為ソ自己ニ危害ノ波
及スルカ又ハ射線ニ危害ヲ醸スカ如キ状況ヲ認ム
ルキハ黒球ヲ掲グバシ射撃艦ハ全様ノ信蹄ヲ以
テ應答シ危害去リタル時ハ監的艦ハ黒球ヲ降ス

(ハ) 其日ノ射撃ヲ止ムルハ否信旗危険旗ヲ連掲ス其信
號ハ受継クモノトス

(ト) 後櫓ニ掲揚セル信號ハ規約信號ニ非ラサルモノ
トス

二、射撃ニ関シ攻究シ得タル意見等ハ艦長砲術長ヲ會
合シテ集蒐スルヲ以テ各艦長ハ樽ヲ麾下ヨリ其材料
ヲ蒐集シ置カンコトヲ望ム

(了)

(注意)

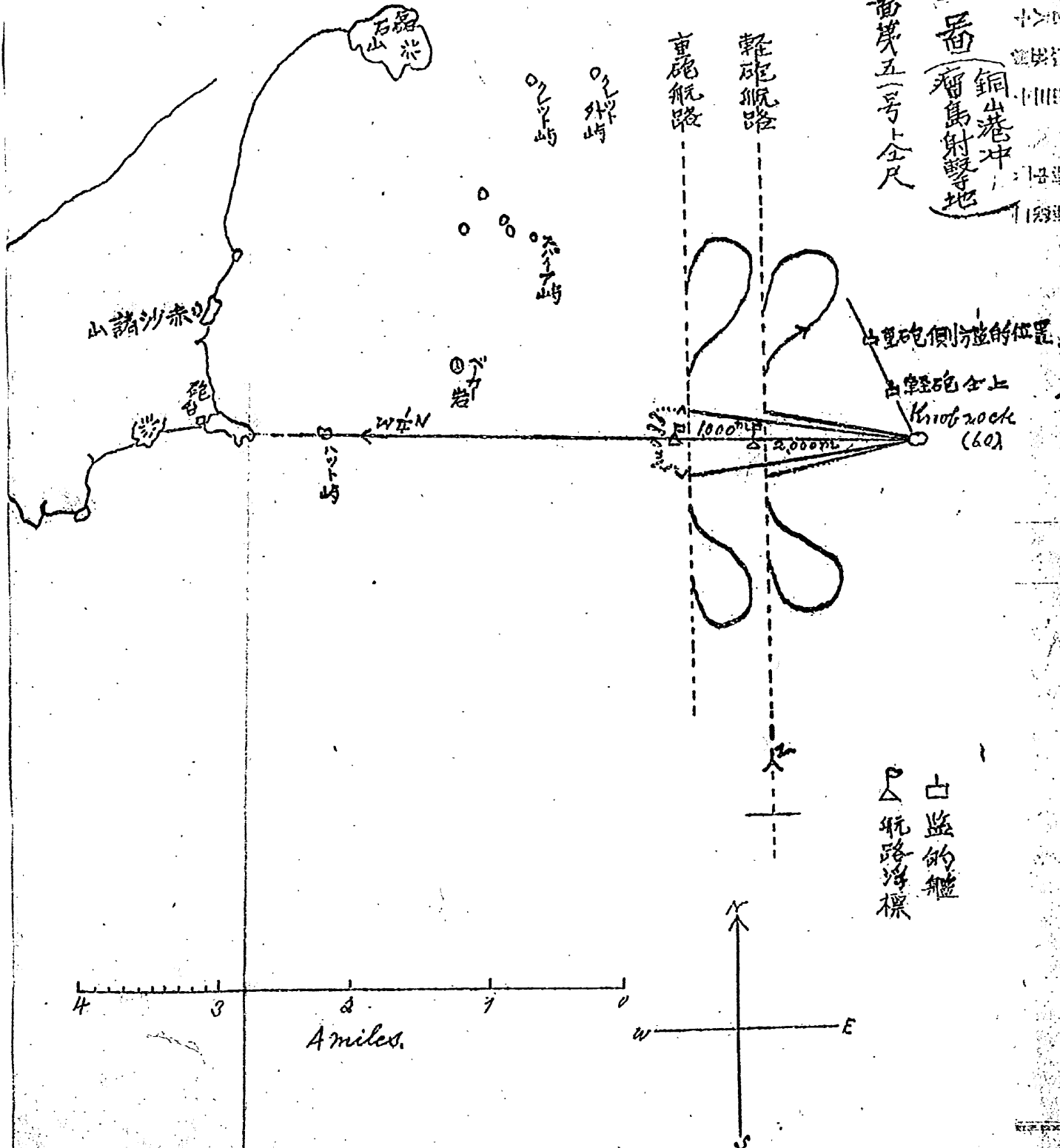
曩キニ發布セル警備枝隊常装藥艦砲射撃手
要領中本次第書ト抵触スルモノハ自然消滅スルモ
ノトス

0763

第一番
銅山港沖
嶺島射擊地

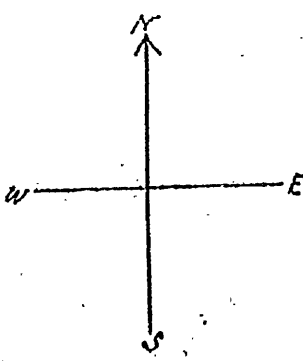
海番第五号上全尺

- 十六 四角標
- 鐵板柱
- 四角標
- 十字標
- 十字標



監視的艦
航路浮標

4 3 2 1 0
Miles.



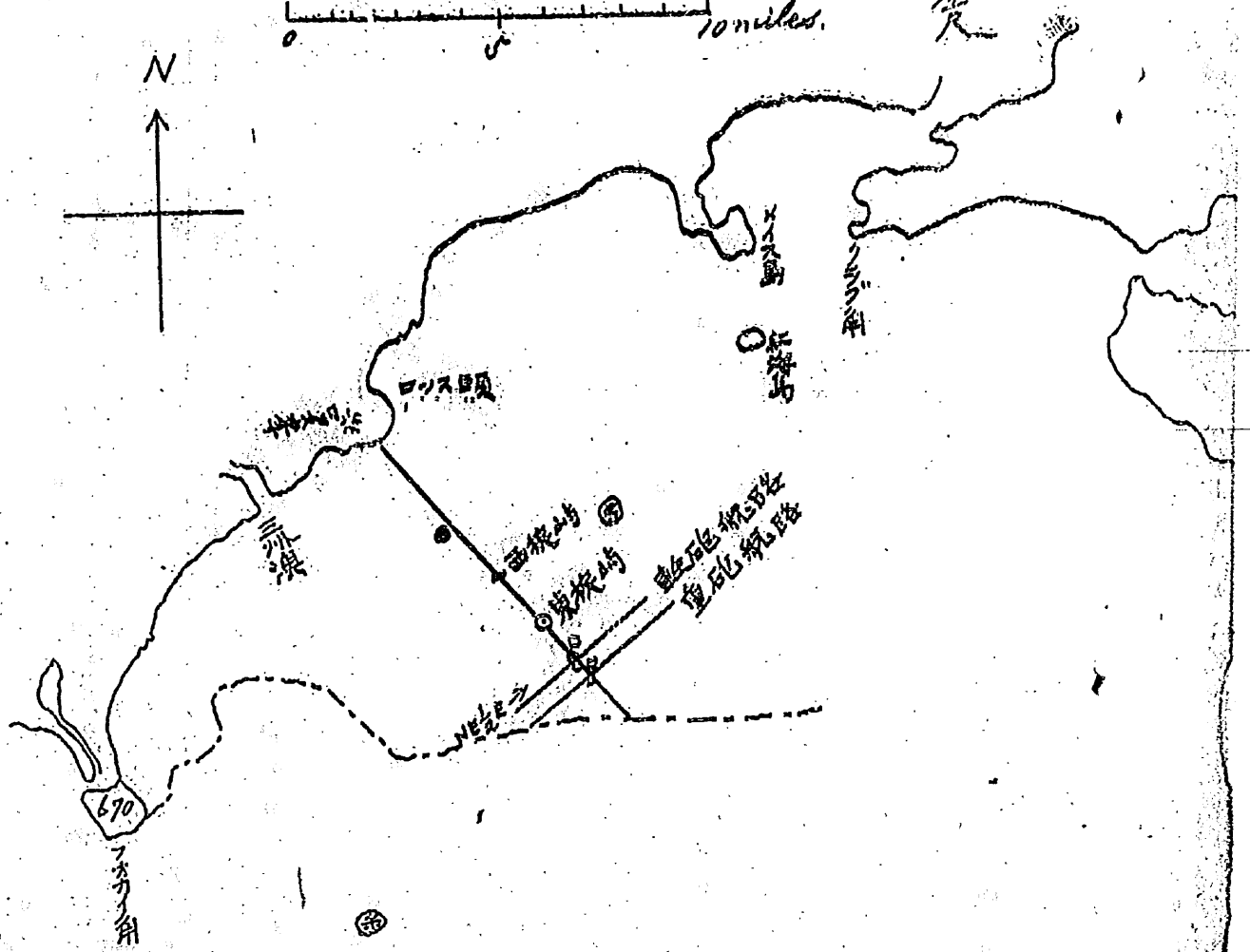
0764

第二圖

紅海灣射擊地
海番第九百九十九號
監的標的的島
方國置ノ位置

- 射擊地
- 標的島
- 國置ノ方
- 海番第九百九十九號

10 miles

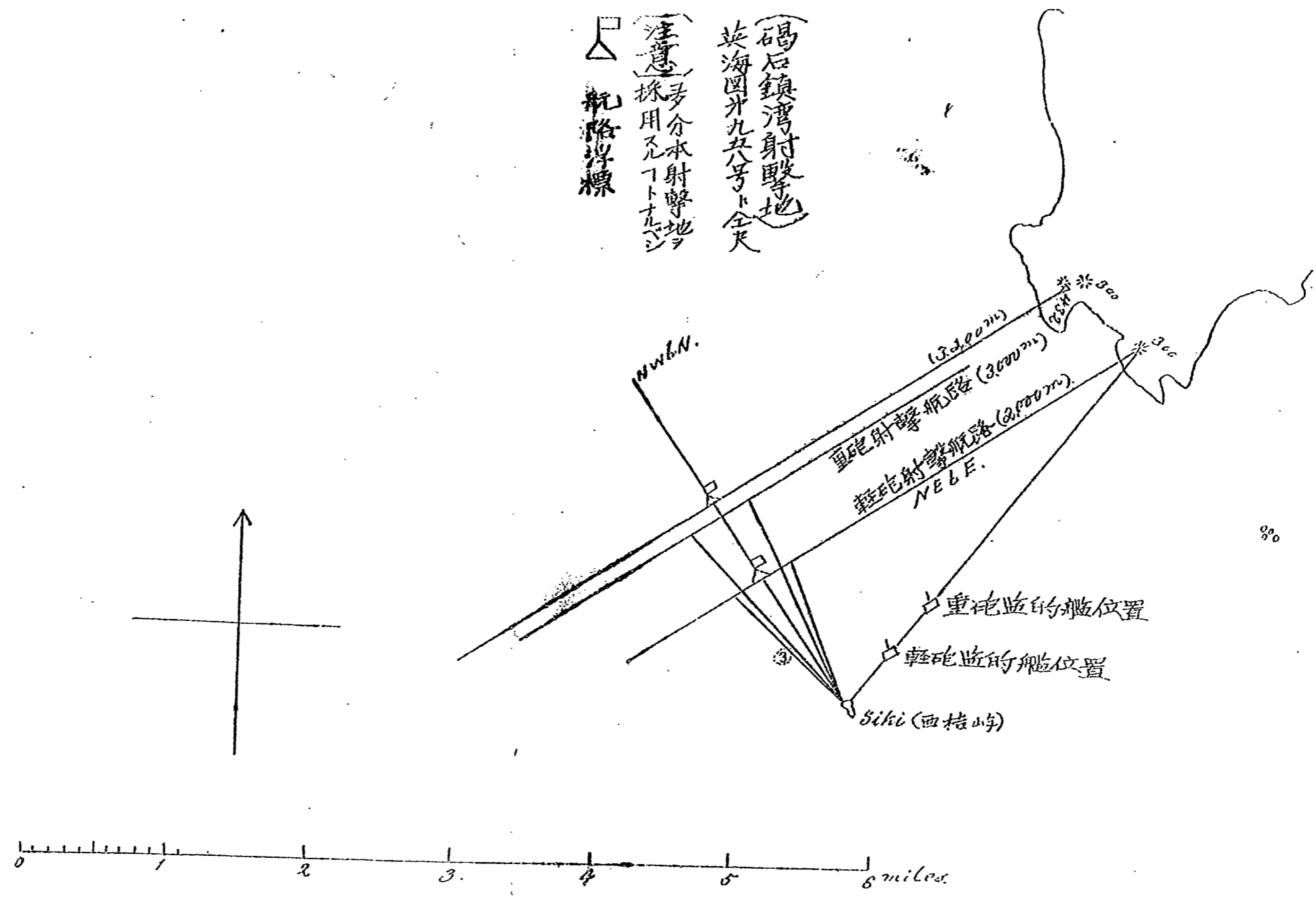


0765

碓石鎮灣射擊地
英海圖并九八号ト全大

注意 多分本射擊地ヲ
採用スルトナシ

航路線



0766